

5. 「企業市民活動推進センター」事業

— コンサルテーション、社員・組合員のV体験、NPOとのコーディネート

「企業市民活動推進センター」(Center for Corporate Citizenship, CCC)は、日本生命財団の助成を受けて、1991年に開設。以来、「企業市民」活動（いわゆる、企業のCSR推進、社会貢献活動）の専門推進機関として活動している。

主な機能は、①CSRを含む「企業市民」活動全般のコンサルタントと研究会の開催、②社員・OB等の市民活動支援のための総合的支援・プログラム提供、③NPOと企業(人)のパートナーシップ作りのためのコーディネート、④社会的責任に関するNPO/NGOからの発信を柱に事業を進めている。

各企業のCSR方針や社会貢献活動のねらいに応じて、実行に移せるよう、具体的な活動先・支援先をコーディネートすることを重視している。

1. コンサルテーション事業

企業市民活動推進センター(CCC)は、社員に自己実現の機会を提供し、NPOを通じて地域社会を活性化させ、企業市民活動に熱心な企業への社員や地域社会(顧客)の共感を高めるコーディネート機関・ファシリテート機関として、以下のようなニーズにそれぞれ応えている。

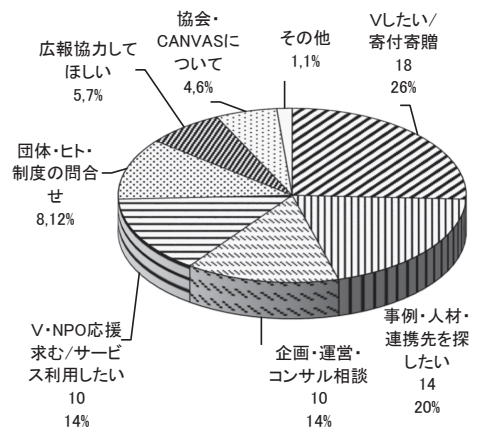
(1) 企業市民活動推進センターへの相談対応

2019年度にセンターが受けた相談内容を図5-1で示す。相談件数は70件(前年度101件)であった。そのうち企業からの相談は、62件(同89件)で全体の88.6%(同88.1%)を占める。

相談内容は、大きく三分され、一つはコーディネート(つなぐ)相談(42件、60.0%)、次に企業等がCSRや社会貢献活動を推進するうえでの企画・コンサルティング相談(10件、14.3%)、最後に、協会事業等の問合せ他(18件、25.7%)である。

このうち、コーディネート相談の主な例は、「支社・部署でボランティア活動をしたいので活動先の紹介を」「〇〇を寄贈したい、被災地に寄附をしたい」「〇〇のテーマで講師を紹介して欲しい」といった内容で、相談者がつながりたい相手をコーディネーターが探し、提案している。なお、「ボランティアしたい」という相談は初めて窓口を利用する企業等が多く、「企画・コンサル相談」は関係性のある企業からのものが多い。

図5-1 相談内容 N=70



相談内容(相談者の主訴)例	対応プロセスと結果
【ボランティア活動先をつなぐ】 20~30名で清掃活動のボランティアをしたい。旅行業という事業と関連して、観光地(大阪城、道頓堀など)での清掃活動を希望している。	清掃活動はどこでもできるが、NPOと組んで実施した方がゴミの課題など社会的背景の話をしてもらうことができ、より活動の理解が深まり、次の活動に繋がりやすいとアドバイス。ボランティアスタイルで組んでいる「チーム御前浜・香櫨園浜里浜づくり」と「箕面の山パトロール隊」を紹介した。
【企業人事担当からCSR活動の相談】 海外の親会社から「CSR活動をせよ」との連絡があり、アクションを起こそうと思っているが、どこでどんな活動が必要とされているのか、どのように探したらよいか、などがわからないので、教えて欲しい。	個別で「はじめてのCSR・社会貢献活動講座」を実施。その上で、本業に関連する団体での活動を紹介するが、受け入れ人数が少なく断念。会社がある地域のNPO支援センターに相談し、当該地域にある企業のネットワークで清掃やイベント等の社会貢献活動を行っているとのことで、紹介する。
【企業担当者からのCSRに関連した相談】 CSR・SDGsについて何が取り組めるか検討を始めたところ。まだ何もわからないので、教えて欲しい。	フィナンソロピー・CSRリンクアップフォーラムと「はじめてのCSR・社会貢献講座」を紹介し、講座を受講。担当者自身もボランティア活動をしたことがないとのことだったので、まずは参加を勧め、紹介した活動に参加した。

（2）企業市民活動推進等の企画への助言やコンサルティング

企業市民活動推進センター（CCC）では、企業の社会貢献プログラムの企画助言や事務局受託、専門員派遣なども行っている。

①. 市民活動団体への助成プログラムの事務局受託

実施企業	業務内容	業務概要
積水ハウス（株）	「マッチングプログラム」（第15回）の助成事務局受託およびアドバイザー就任	市民活動団体への助成プログラムの協働事務局を受託。アドバイザーに永井事務局長が就任。プロジェクト助成に37件に総額3,833万円を助成。
阪急阪神ホールディングス（株）	第11回「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成プログラムの助成事務局受託	09年度から開始した「未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラムの助成事務局を受託。第10回で初めて実施した事業助成部門の継続助成に向けた設計や選定事務に協力。15団体（事業助成部門（継続）5件、団体助成部門10件）に総額950万円を助成。

②. NPO組織基盤強化の企画受託

実施企業	業務内容	業務概要
武田薬品工業（株）	武田薬品工業（株）のNPOの組織基盤強化業務受託（タケダNPOサポートプログラム）	関西の保健医療分野NPOの組織基盤強化とネットワーク形成を目的に2016年10月より4団体のNPOに対して、課題の共有とファンディングをテーマにプログラムの実施など伴走型企画を受託。最終年度となる2019年度は、4団体報告会とフォーラムを実施した。詳細は、第2章「市民力向上事業」で報告。

③. 企業等が行う社会貢献事業の助言・コンサルティング業務受託

実施企業	業務内容	業務概要
阪急阪神ホールディングス（株）	「阪急阪神 ゆめ・まちソーシャルラボ」企画運営の業務受託	市民団体・グループ会社の社会貢献活動に関する展示やセミナー、ワークショップ等へのアドバイスや、イベントの情報発信等の業務を受託。2019年度をもって終了。
帝人（株）	「ボランティアサポートプログラム」の団体のデューデリジェンス・チェック	国内のグループ社員が取り組むボランティア活動の中から、活動費用を一部サポートする支援先を決定するにあたってのデューデリジェンス・チェックを行った。

④. 企業とNPOの人財交流（出向受け入れ）

実施企業	業務内容	業務概要
花王（株）	「中間NPO人的支援」出向社員の受け入れ	花王（株）の「企業とNPOの人財交流プログラム」により社員1名（谷垣哲也）の出向を受け入れている。

2. 教育・研修・研究事業

（1）社員向けボランティア講座の受託開催、および企業関連の講師派遣依頼

2019年度に企業や労働組合等からの講師派遣依頼は9件（同13）あり、企業市民活動やCSR等のテーマでの依頼は3件（同5）だった。

（2）「フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）」の企画運営

フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）は、企業の社会貢献担当者やCSR担当者が2か月に1回、CSRやフィランソロピーにまつわるトピックスについて学び、議論を行うフォーラム。2019年度のPCLFは、年度テーマを「リスクと機会を洞察し、企業価値向上に結び付ける」とし、定例フォーラム全6回を行った。年度テーマを取り上げるとともに、社会課題に関するトピックスを取り上げ、1回はフィールドワークを行った。年度テーマや各回テーマを何にするか、講師を誰にするか、などの企画は、幹事会を中心にフォーラム会員自らが企画を進めているのが特長である。

①. 2019年度の会員企業・団体

2019年度の会員企業・団体数は29社・団体（前年度30社・団体。顧問・当協会含むと32）で、企業24社、中間支援NPO5団体であった。

【企業（24社）】 ※幹事会員（5社）は★印

大阪ガス(株)★/大阪商工信用金庫/オムロン(株)/㈱カネカ/関西テレビ放送(株)/近畿労働金庫★/㈱神戸製鋼所
/住友生命保険(相)/積水化成工業(株)/積水ハウス(株)★/ダイキン工業(株)/大同生命保険(株)
/大日本住友製薬(株)/田辺三菱製薬(株)/西日本高速道路(株)/西日本旅客鉄道(株)/日東電工(株)

／日本テクノロジーソリューションズ(株)／パナソニック(株)／(株)阪急阪神百貨店★／阪急阪神ホールディングス(株)★
／(株)マンダム／三菱商事(株)関西支社／(株)Y U I D E A

【中間支援NPO（5団体）】

(福)大阪府社会福祉協議会／(一財) ジャパンギビング／(特) ジャパン・プラットフォーム／
(福)兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザ／(特)わかやまNPOセンター

※2019年度の新規会員はなし。2018年度末で退会した企業は関西電力(株) 1社。

②. 定例フォーラム

2019年度の定例フォーラムも原則として偶数月火曜日に年6回開催し、のべ参加者数は246人（前年度257人。協会・講師等を含む）であった。

また、フォーラムの運営では、幹事会メンバー以外の会員企業に会場を提供してもらったり、グループワークの発表を担ってもらったり、会員企業・団体の出番を増やすよう取り組んだ。



フォーラムでは熱心な議論ができました！

■2019年度テーマ「リスクと機会を洞察し、企業価値向上に結び付ける」

回/日	会場	テーマ	話題提供・講師	参加
第67回 (4/9)	大阪商工 信用金庫	2018年度の自社のCSR・社会貢献活動をご紹介！～各社の取り組みに学び、今後の自社の活動に生かす～	参加全社によるプレゼンテーション	39人（17社・団体）
第68回 (6/11)	人と防災 未来セン ター	【フィールドワーク】 人と防災未来センターで学ぶ～多発する自然災害に対応するために、企業が備えておくべきこと～	菅野拓（人と防災未来センターリサーチフェロー、大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員）	45人（22社・団体）
第69回 (8/6)	阪急電鉄 本社ビル	気候変動によるリスクと機会を洞察し、企業価値向上に結び付ける	森澤充世（CDPジャパンディレクター、PRI ジャパンヘッド兼務）	46人（17社・団体）
第70回 (10/8)	大阪ガス OMEビル	「ビジネスと人権」におけるリスクと機会～企業価値向上のために～	松岡秀紀（(一財) アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）特任研究員）	41人（20社・団体）
第71回 (12/10)	NEXCO 西日本 本社ビル	「SDGsとLGBT」	村木真紀（特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ代表、社会保険労務士）	39人（17社・団体）
第72回 (2/4)	JR西日 本本社ビル	知っているようで知らない人口成熟の実態～その打撃と思わぬメリットとは	藻谷浩介（(株)日本総合研究所 主席研究員）	36人（18社・団体）

③. フォーラム自主ゼミ「リンクアップ・ジュニア」の開催

PCLF会員企業の実務担当者の自主勉強会。参加団体は13社で参加者数15人（昨年同期13社15人）。2019年度はメーリングリストでの情報交換のみで、会合は開催されなかった。

④. 「リンクアップフォーラム幹事会」の開催

PCLFの参加型運営の要となる同幹事会で、フォーラムの企画検討を行うとともに、当日運営では講師との打合せやグループディスカッションのファシリテーター役を担うなど、幹事会メンバーを中心にフォーラム運営を行った。2019年度は後述する連携協働企画でも中心的な役割を担ってもらった。

・日程：[幹事会] 2019年4月2日、5月9日、6月20日、8月20日、10月25日、12月19日

2020年2月27日、計7回

・内容：定例フォーラムの企画運営、会員企業・団体へのフォローと新入会員勧誘等

・メンバー：大阪ガス(株)、近畿労働金庫、積水ハウス(株)、(株)阪急阪神百貨店、阪急阪神ホールディングス(株)、住友生命保険相互会社（オブザーバー参加）、(福)大阪ボランティア協会/事務局

⑤. 連携協働企画の実施

2018年度に実施したPCLFの合宿で、PCLFならではの連携で新たな取り組みをしようと、「NPOとの協働」「災害・防災」の2つのテーマで関心のある会員企業メンバーが集い、チームを組んで取り組んだ。

◎NPOとの協働（8社10人）：NPOと協働して取り組みやすいテーマとして2020年1月に25年を迎える阪神・淡路大震災を取り上げ、フォーラム開催に向けて4回の企画検討会議を実施。協会の災害支援委員会と連携。

◎『阪神・淡路大震災25年事業「大規模自然災害に対し、企業とNPOはどう協働できるか～阪神・淡路大震災を振り返り、未来を考える～」』

- ・日時：2020年1月17日（金）14時～16時50分 ・参加者71人
- ・講師：長澤恵美子（（一社）日本経済団体連合会SDGs本部統括主幹）／明城徹也（（特）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOD）事務局長）
- ・パネラー：田村太郎（（一財）ダイバーシティ研究所代表理事）／中野伊津子（大阪ガス（株）地域共創部門近畿圏部ソーシャルデザイン室係長）
- ・コーディネーター：早瀬 昇（（福）大阪ボランティア協会 理事長）
- ・主催：フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）／大阪ボランティア協会

◎災害・防災（7社10人）：災害発生時にスムーズに会員企業が連携してボランティアツアーを実施できる仕組み作り等に取り組み、4回の検討会議を実施。2019年10月に発生した台風19号発災後は、その仕組みに一部別った形で、いわき市・茨城市へのボランティアツアーを企画実施した（第1回：2019年11月22日～24日、参加者：7社・団体18人、第2回：2019年12月13日～15日、参加者：5社・団体14人）。詳細は、第4章「災害・復興支援、防災事業」で報告。

（3）「はじめてのCSR・社会貢献講座」の開催

企業のCSR推進や社会貢献活動の担当に着任して1～2年程度のプロジェクト担当者やその責任者を対象に、少人数での講義および個別相談会の基礎講座を2017年度から実施。定期的に開催し、個々に寄せられる相談に効率的かつ丁寧に対応していくことを狙いとしている。2019年度は月1回の定例開催としたが、申込みは2社に留まった。次年度に向けて、広報の見直しを予定している。なお、講師とともに企業市民活動推進センター（CCC）運営委員も同席し、同じ企業の立場としてアドバイス等を行っている。

- ・日程：2019年5月23日、2019年11月11日 ・参加者：3人／2社・団体
- ・講師：江渕桂子、企業市民活動推進センター（CCC）運営委員

（4）「うめきた朝ガク」運営委員会への参画

毎月第4木曜日の午前7時30分から1時間限定で「うめきた朝ガク」を企画開催。主に梅田周辺で働く人を対象に、出勤前や通学前等のすきま時間にソーシャルなシャワーを浴びて、フレッシュな気持ちで1日を始められる場を提供した。2019年度はのべ202人が参加し交流した。運営は企業のCSR担当や元担当者、NPOやソーシャルビジネスに取り組む者や支援する者などが参画する緩やかなネットワーク体が担っており、当協会は、運営委員会の代表及び事務局を担っている（会場提供：大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 都市魅力研究室）。

回	テーマ、登壇団体名	日程	参加者数
65	若者発信のSDGsで社会をつなぐ、心をつなぐ 上田隼也（学校法人立命館財務部新規プロジェクト担当）	2019年4月25日	19人
66	まもなく1年、今も続く大阪北部地震の終わらない被害 中島武志（災害救援レスキューアシスト代表）	2019年5月23日	37人
67	昆虫食は古代から来た未来食?!～昆虫食2.0の世界へ 松井崇（株式会社昆虫食のentomo 代表取締役社長）	2019年6月27日	28人
68	葬送の変化と孤独社会～死者の遺す『縁』 北條保（和泉石材代表）	2019年7月25日	19人
69	Wonder LAB Osaka って何？ パナソニックが開設した新たなアイデアを生み出す社内外共創の場とは 小林靖弘（パナソニック Wonder LAB Osaka 所長）	2019年8月29日	24人
70	ヴィーガンって動物愛護で過激なんでしょう？ 地球に優しい食の選択 ～週一ヴィーガンのすすめ～ 間絵莉子（サンテカフェ）	2019年9月26日	26人
71	依存症からのリカバリー ～この町に暮らす一人の生活者としての生き直しのプロセスと軌跡～ 渡邊洋次郎（リカバリハウスいちご）	2019年10月24日	13人
72	ランニングでアート?! GPSランで地域を元気に、子どもたちに夢を 志水直樹（プロGPSランナー）	2019年11月28日	18人
73	うめきた朝ガク「懇親忘年会」 場所：『foodscape!』（大阪市福島区） ゲスト：堀田裕介（料理開拓人）	2019年12月12日	18人

※2020年1月から3月は、シーズンオフで開催なし